

会 議 録

1 会議名

第2回春日区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○ 地域活動支援事業について

(1) 提案事業に関する意見交換（公開）

(2) 提案事業のヒアリング（公開）

3 開催日時

平成26年5月14日（水）午後6時30分から午後8時50分まで

4 開催場所

春日謙信交流館 第1会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：飯田功、池杉清子、大口幸司、大竹明德、長田久夫、竹内伊澄、田中実、
中島富士一、南雲和子、橋本桂子、宮腰明浩、宮崎光雄、宮脇信行、
山本紀昭、吉田実、鷺澤和省、渡部正由

・事務局：中部まちづくりセンター 北島センター長、恩田係長、小林主事

8 発言の内容

1 開会

【恩田係長】

定刻になりましたので、平成26年度第2回春日区地域協議会を開催いたします。
本日の出席人員は現時点で16名です。川室副会長からは欠席のご連絡をいただいております。中島委員からはいただいておりますので、後ほどお越しいただけるもの
と思います。上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員
の半数以上の出席がありますので、会議が成立することを報告します。はじめに、吉
田会長からご挨拶をいただきたいと思います。お願いいたします。

2 会長挨拶

【吉田会長】

今日は皆さん忙しいところ、協議会の方に出席いただきまして、ありがとうございます。本日は提案事業に関する意見交換とヒアリングが1件ございます。意見交換では提案者の意向を汲み取りながら、有益な意見等が出てくることを期待しております。以上です。

【恩田係長】

ありがとうございました。それでは、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長から議長を務めていただきます。よろしくお願いいたします。

【吉田会長】

それでは、以降の議事進行を務めさせていただきます。皆さんの御協力をよろしくお願いいたします。一応目標を8時半位までとして進めていきたいと思っております。まずは意見交換をやってその後、ヒアリングという形で行きますのでよろしくお願いいたします。それと、今日の会議録の確認者は橋本委員になりますのでお願いします。

3 議題

【吉田会長】

それでは、次第に沿って進めてまいります。3議題、地域活動支援事業についてです。初めに事務局から今日のタイムスケジュールについて説明の方をよろしくお願いいたします。

【恩田係長】

先ほどお話がありましたように、予定していますヒアリングは8時10分頃からスタートする予定です。従いまして、それまでに他の13事業の意見交換の完了を目指していただきたいと思います。目安としましては、1事業あたり6分から7分、30分あたり5事業程度のペースで進行すれば、8時頃に完了するということでお考えいただきたいと思います。

本日、全件の意見交換が完了しましたら、5月21日の会議で採択決定することが可能でございますが、次回会議の日程については最後の「その他」の場面で協議いた

だきたいと思います。なお、5月21日の会議で採択決定するための前提として、採点表を全員から5月19日までに事務局にご提出いただく必要がございます。非常にタイトな日程となりますので、皆さんから許容いただけるのであれば、そのような日程が可能でございます。

【吉田会長】

ありがとうございました。只今の説明について、ご質問がございましたらお願いいたします。

よろしければ（1）提案事業に関する意見交換に入りますが、去年、会議の進め方のレクチャーを受けましたけれど、採点等にちゃんと役立つ意見交換と言いますか、そういうものに努めていただきたいというのと。それから前回話されたようなことを繰り返した発言するようなことは、控えていただきたいなと思います。

それでは、番号の順で、【春－1 高齢者の「ふれあいサロン・仲間づくりと、いきがづくり」事業】について入っていきます。それで、【春－1】と【春－2】については、文書照会を行っておりますので、その結果を読んでから意見交換に入りたいというふうに思います。その【春－1】の回答に書かれているように、ゑしんの里やすらぎ荘については、飲食費2,150円、入湯料が520円、休憩料が330円です。それから芝峠温泉雲海については飲食費が2,070円、入湯料が600円、休憩料が330円と回答をいただいております。ですから、事業費の一部が補助希望額という状況です。事業費は223,000円で補助希望額は80,000円ですけど、これについてご意見ございますでしょうか。

【鷺澤委員】

この疑問点を提出したのは3,000円のうちですね、1,000円分が支援費用にあたるということで、その内容についてどのくらい支援してよいのかということで疑問点を出しました。それで今回の回答シートを見ますと、飲食費それから入湯料、それから休憩料というのがどちらにも共通しています。本来、飲食費についてはですね、お茶代位しか、いろんな事業で200円位のお茶代しか出していないんですよね。これは明らかに見ると、かなり豪華な昼食費みたいな感じにもなりますし、それから風呂に入るというのは完全な個人負担で行うべきサービス料金ですので、こういった問題についてはですね、やはり協議会として統一性を持って判断していくべきではないかと思います。ただ休憩料につきましては、その会館を利用するという観点から全

部削っちゃうと80,000円のうち、もう50,000円を割っちゃいますので、そういう意味で「休憩料」のみ私は支援してもよいのではないかと、個人に関わる飲食代ですので個人で負担すべきではないかという具合に考えます。

【吉田会長】

これは解釈の仕方ですね。他に意見いかがでしょうか。鷺澤委員は飲食費はカットで、入湯料もちょっとまずいのじゃないかというご意見ですね。

【橋本委員】

補助を求められているのは、交通費等も含まれているということですよね。それで、質問に対して、答えがこういう形で返ってきただけで、特にこれだけで補助をしないというわけではないということですよね。

【吉田会長】

他いかがですか。これは全額補助を求めているわけじゃないですね。80,000円が相応しいかどうかというのは、また次回で金額を決める時にお願いしたいと思いますが、よろしいですか。

(はいの声あり)

それでは、【春-2 上杉軍出陣式用甲冑更新事業】についての疑問点回答シートを出してください。更新計画を明らかにしてくださいということで問い合わせたわけですが、回答の方では、すでに補助事業で更新したもの、それから今回平成26年度で提案しているもの、来年以降ですね。平成27年に2着ですかね。28年にも2着です。他についてはとりあえず更新の予定はないということで、来年再来年また提案する、一応可能性があるということと、それから採択額によってはひとつずつになることもあり得るということで返答をいただいております。以上を考慮しながら【春-2】についてご意見ございましたらよろしくお願いたします。いかがでしょうか。

【宮脇委員】

前回欠席して申し訳なかったんですけど、今回は見積もりについては意見はなかったのでしょうか。

【吉田会長】

回答書に書いてありますよね。ちょっと難しいと。だから全く同じのものは無理だと思うんですよね。だからこれからの努力としては、ちょっとタイプとして似通ったものを相見積もりとるくらいは不可能じゃないかなと思うんですけどもね。

【宮脇委員】

この一義会の補助について、やっぱり他からも見積もりを取ったらどうかと私は考えていますけれども。

【吉田会長】

じゃあれですか、仮に採択するとして、その採択するときに付帯意見じゃないですけど、こちらからのアドバイスとして、要は同じ、全く同じ見積もりは無理かもしれないけど、やはりその他メーカーのものも参考にとってみたらどうかということは何か提案はできると思うんですけどね。そういう努力をしてくださいと。

【宮脇委員】

値引きなんて一銭もしてないわけだよ。

【吉田会長】

だからあの、これはあれでしょ。そのもう仕切り値じゃないけど、もう限界の金額で提案してるということだと思んですけどね。大幅な減額は無理だと。だから宮脇委員がおっしゃるのは、できるだけ相見積もりをとる努力をしてくださいということですよ。はい、他にいかがでしょうか。そういうものを採択する段階でちょっと付帯意見や何かを付けて、コメントを付けると。いかがでしょうか。よろしいですか。はい、【春-2】は以上にいたします。

次、【春-3 安全に安心して暮らせるまちづくり事業（巡回パトロール実施事業）】についてご意見ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。まあ継続事業ですのでよろしいですか。

【池杉委員】

春日山町なんですけど、毎年のように旗竿が折れてしまうような使い方はおかしいかと、去年も同じようなことを言ったと思んですけど。これは去年もだいぶ新しいところでも、1丁目と2丁目に新しくということで、結構予算、採択なんですけれども。なぜこれだけのものが必要なのかという、それはあればこしたことはないのかもしれないけれども、ちょっと私は疑問だなというふうに思いました。

【吉田会長】

私、消防団で防火週間やなんかで、ああいう桃太郎旗を飾ったりするんだけど、意外と弱いんだよね、作りが…。傷みます。だから消耗品だと思ってください。

【大竹委員】

使ってみると1年もたん。

【吉田会長】

で、持ったりなんかね、したり、風が吹けば傷んじゃうから。これはよいのじゃないですかね。傷んだものの交換。消耗品だと思っていただいて。

【宮崎委員】

旗の件だけでも、期間決めて旗立ててるの。ずっと立ててあるんじゃないですかね。防犯パトロール中とかに。1週間も雨が降れば、もたんわね。外れてるのもあったけど。破れてるのもありますね。1年中してるんですかね。

【橋本委員】

3丁目の住民なんですけれども。班長さんのおうちには必ず家の前には出すようにしています。それで傷んだりとかしたり、そういうのが無いように一応管理はそれぞれにお任せしているんですけれども、それ以外の部分も町内の管理の分もあります。

【宮崎委員】

だから、それずっとしているんですか。

【橋本委員】

ずっとしています。原則。

【宮崎委員】

1年中。

【橋本委員】

はい。

【飯田委員】

1丁目の単価が1,750円なんですけれどもこれは80組だから1,750円なんですか。

【吉田会長】

何ページですかね。1ページ。

【飯田委員】

1ページ。2丁目、3丁目は1,900円。

【吉田会長】

よろしいですかね。はい、他いかがでしょうか。よろしいですか。【春-3】いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは【春－４】に移ります。「春日山城跡観光整備事業」につきまして、ジオラマの作製につきまして意見がございましたらお願いいたします。

【鷺澤委員】

ジオラマというのを今年初めて希望しているようですが、本来の名前を私は信じてました。春日山城跡保存整備促進協議会というのが名称ですよ。それで、大正何年かの姿に復元していくために、子どもたちも、あるいは地域全体が一体となって保存整備事業に取り組んでいくと。私今年初めて木田町内の役員になったもんですから、松葉かきにもこの間参加しましたし、それから清掃事業等にも参加しました。非常にいい運動だと思っています。したがってむしろこの協議会について私は、春日山城跡の保存ですとか整備事業に特化するわけにはいかないのかなという素朴な疑問を持って。観光についてはですね、春日城跡だけではちょっと展開は難しいわけですので、新幹線の開通と同時に様々な所と手を取り合って観光開発をしていかないと難しいと思うんですが、その辺、保存整備事業に特化してということは協議会としてはどうなのかという…。

【吉田会長】

私達がそういうことをとやかく言うべきものじゃないと思いますね。そこはその会でちゃんと方針というものを決めていて、私ら春日区地域協議会がその協議会に意見言うようなあれじゃないと思いますよ。そこはそちらで。

【鷺澤委員】

そうかな。

【吉田会長】

私らはそんなことをとやかく言う立場じゃないと思いますよ。協議会がね。それはちょっと筋違いな気がしますね。それとあれですよ、その促進協議会の会則ですが、そういうところには、事業の中の（４）に春日山城跡の活用等、後世の歴史の継承、そういうところも含めていると思いますので、その他必要と認めた事業と書いてありますから、そういうところでこういった、実際の山しか、杉林、松林しかないような山よりも、こういった昔の姿を復元してどういう姿だったかというのを想像させるような今回の事業の提案というのも相応しくないとは言えないと思いますけどね。活動の一環であるということで。

【宮崎委員】

会則を見てもらえば、これには整備が主じゃないですかね。これは観光…。春日山の整備になるのかね。その辺ちょっと整合性が分かりません。

【吉田会長】

これだけでは漠然としてて、はっきりしてないでしょ。

【宮崎委員】

漠然としてますけど。今までの協議会の仕事の内容から見てですね、ちょっと整合性がどうなのか分かりません。

【鷺澤委員】

私は先ほどの会長の発言というのは、私は非常に心外ですね。どうしてかと言うと、今話もあったように、整備促進協議会がやってきた活動内容を見ても、やはり保存整備だということを、それをいろんな地域や子どもたちと一緒にやっていく、そういうことが中心であったわけです。それでこの前にもちょっと疑問を出しましたけれども、上越の観光コンベンション協会ですか、そういったものがJTB等が商工会議所等と一緒に観光開発を展開していこうと、ということで単に春日地域だけではなくてね、これは妙高も糸魚川も十日町もみんな入った観光政策を展開していこうという、そういう流れの一環ですよ。そういう意味で春日地域の活性化という点では若干は寄与するかもしれませんが、むしろこれはそういった、いわゆる「越五の国」一つの国の観光開発の一環だという具合に考えます。で、私たちが言うべきではないという発言がありましたけれども、むしろ私は言うべきというか、素朴な疑問として整備促進に特化するお考えはありませんかという疑問を呈するぐらいは発言しちゃいけないなんていう、そういう司会の発言は正に私はおかしいと思いますので、そういった意味でどうなんでしょうかと。それじゃ例えば400万円のジオラマですけど、半分はこっちへ要望して後は200万円は商工会に寄付ですか。ということは促進協議会がこの私たちの城跡促進協議会が、これがジオラマを作っていくということなんですか。寄付を求めて…。

【吉田会長】

私の言いたいのは、促進協議会がやるべきことを拘束するような発言はしない方がよいと…。

【鷺澤委員】

いや、拘束はしていない。素朴な疑問として言っている。特化するお考えはありま

せんか。特化しろとは言っていない。

【吉田会長】

それとですね。提出されている書類の（3）ですかね、採択方針の整合性のところで、ちょっとコンベンション協会やなんかとタイアップして事業を提案しているということなんですね。代表して提案してるようなもんだと思うんですけどね。実行部隊というか。だから、あくまでいろいろ活動っというのは変わってきていると思うんですよ。そういったコンベンション協会とかそういうところとコラボして、商工会とかとコラボして、これから活動していくよという中での最初の提案だと私は思っていますけれどもね。単独の促進協議会としての事業じゃなくて、こういうところとコラボした、提案者としては促進協議会が提案したと。私はそういうふうを考えるんですけど。だから今回の構想がありましたよね、あそこに名前がなかったけれども、そういうところみんな、整備促進協議会の意見も参考にして構想というのは出来ていると思います。名前が出てないだけでね。だから今までやったことのそのままというのではないと思う。どんどん変わってきていると思いますよ。状況がね。だから私とにたくコンベンション協会やなんかとちゃんとタイアップして相談の上で提案してきていると思うんで、提案の実行部隊がこの今回の促進協議会だと私解釈しています。

【宮脇委員】

私の記憶間違いかも知れませんが、実はこの春日山城、これからやっとならね、立ち上げたコンベンション協会と商工会議所とこの春日地区の整備振興会と共同で立ち上げた事業として、こんな分厚いんですね、皆さん帰ってコンベンション協会のホームページを見てください。ものすごく長い…。

【吉田会長】

それなんか前、ちょっと提示しましたよね。したはずです。

【宮脇委員】

その中の一環としてこのジオラマの制作が生まれているんじゃないでしょうか。そうですね。その中に例えば春日山にベンチを置くとか、埋蔵文化センターを…。

【吉田会長】

いろんな構想がありますよ。

【宮脇委員】

そういう構想の中の一環としてこのジオラマの制作もあるのであれば、この春日保

存整備振興会が主体となるのは、やっぱり筋が違うと思うんですね。本来であれば、密でやってもその中の一つだけを取り上げて、これが春日地区のものだからこれだけじゃ。じゃ例えば途中で看板を作るっていうんですね、上越妙高駅から春日山。看板を作る。そうしたら看板はあれですか、金谷地区に付いているのは金谷地区で補助するとか、そういう論法になってしまうんですけどね。だから埋蔵文化センターに何かそういうものをした場合に、これもじゃあ春日地区なら春日地区でやってくるれというような論法になってしまうので、今鷺澤委員が言ったとおり、やっぱり主体はそういう三者や四者の人たちの共同体であれば、これだけをピックアップして我々地域協議会にぶつけるというのはやっぱりちょっと筋が違うと。

【吉田会長】

それはそういうお考えだということによろしいのじゃないでしょうか。

【宮脇委員】

と私は思います。

【吉田会長】

そういうお考え、宮脇委員はそういうお考えだということですね。

【宮脇委員】

だから私は会長が鷺澤委員に言っているのを聞いていて、鷺澤委員の言うことが正論だなと思っています。

【橋本委員】

いろんな意見があってよいと思います。それで私はもし自分が提案者の立場だったとしてというか、この活動をしているとしたら、今ここの事業の目的及び期待すること（２）の部分なんですけれども、その目的のところとかにやっぱり全体像が、山の全体像が山城がなかなか把握できないし、高齢になれば上することもできないと、何かそういう中でこの整備事業を展開していく時に山の全体像がつかめた方が今こんなところが、今こんなふうに皆さんに手を入れてもらってるんですよとか、昔こんな場所だったんですよ、今手をいれてもらう、これから今日整備してもらおうところがこんな場所だったんですよとか、そういうのが把握しやすいとしたら、整備事業自体も少し進める手伝いというか、手助けというかそういうものになるんじゃないかと。何かしらこの事業、この方たちの団体の事業には有効に働くツールになり得るのではないかというふうなことは想像、これは私の意見として思うので、そんなにあれじゃない、

はずれた事業ではない。地区として協議会として支援するには妥当性があるような気がしました。

【吉田会長】

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

【大竹委員】

フィールドミュージアム構想の趣旨というのを見ているんですけどね、これちょっと読みあげますとね「上越観光振興が5カ年計画でね、春日山地区を重点、集客エリアと位置付けて上越コンベンション協会と上越商工会議所が実施プランとしてやるっさ戦略で官民あげて具体的な取組を確認したところであります。」って書いてあるんだよね。だから官民あげてということで、この春日山城跡史跡保存事業協議会が行ってもいいと思うのです。

【吉田会長】

他の委員さんどうですか。重要なことだと思うんです。

【大竹委員】

これを見るとね、春日地区、いわゆる春日山地区を重点集客エリアとして考えているということは、春日山区の活性につながるということなんですよ。

【吉田会長】

採択方針に沿った提案だということですね。

【鷺澤委員】

今の件で言うと、この前もちょっと話したんですけども、上越コンベンション協会、それから商工会議所と名前は全部出てくるし、JTBという名前も出てきてますよね。だから、私この前も質問したけども、保存整備協議会がね、ここに加わって、そして保存整備ではなくて春日山城を一つの基点にした活性化策をさらに発展的にやっていくんだという、そういうこの目的とかね、趣旨説明があればよいんです。この中に。コンベンション協会のとなりに春日山城跡保存整備協議会という名称がきちんとあって、保存整備だけでなくこういうこともやっていくんだよという。観光政策としてジオラマ等あるいは春日山地内における立て看の設置ですとかそういったようなこともやっていくんだよというような発展的な説明があれば、私は基本的には賛成しますが、突如としてジオラマが出てきたという感じは否めないですよ。だからそういう意味で素朴な質問として、もし本来の狙いから言えば保存整備協議会は保存整

備事業に特化して春日山の活性化を図っていくことはできないのですかという、そういう疑問を持っています。だからそういう意味で、この前も質問しましたけれども、主催団体に名を連ねることは可能かどうかということ質問しただけです。

【吉田会長】

実際に協議会ともいろいろ協議しているんじゃないですか。

【宮腰委員】

特に、保存整備促進協議会の名前は特に出なくてもよいと思うんですけど、要するに大きい流れの中で、要するにこの春日山が中心的にやるんですよということで、そのシンボルを一つ作りましょうと。いくつかあると思うんですね。その中でジオラマというシンボルを一つ作って、そこをそれを活用しながらこれから来る人にも説明できる地元の人も勉強できる、学習できる、子どもからね、大人だって。そういうものを作ろうとしているんだから、要するにその名前で、組織の構成を云々しているわけではないんです。ジオラマを作るという事業を提案しているんだから、それはそれで私はいっこうによいのではないかなというふうに思いますね。その中心になるのが整備促進協議会がその事業として出てますとそれをたたいて下さいということでしょう。検討してくださいということでしょう。そういう捉え方で私は何ら問題ないんじゃないかなと思いますけどね。

【吉田会長】

構想そのものを含めて提案されて、その中の第1段がジオラマだろうと、私は解釈していますけどね。

【山本副会長】

宮腰委員がおっしゃった通りで、鷺澤委員が言われたのは中心になってないじゃないかということだと思のですが、あの書面だけ見るとそうなんですけど、実際はそういう中心になってそれぞれの団体なり、市の教育委員会と連携をとりながら進めていきます。今その話をしてちょっと叱られたんですけども、前回ジオラマ作る1回目の打ち合わせをやった時も、中心になっていると思うんですね。あれだけ見ると、ちょっと名前が載っていないのであれなんですけども、それぞれの団体が手分けしてやっているということですので、その辺誤解のないようにお願いします。

【宮腰委員】

前のジオラマでは駄目なんですか。ずっと前の。5年も前に作った。

【山本副会長】

ものがたり館の…。

【宮腰委員】

今は埋蔵文化センターにある。あれでは駄目という考え方なんですか。

【山本副会長】

お話に出ていた、町内会長会なりいろいろな研修であちこち、安土城とかそれから、行っているんですけど、その中でやっぱり春日山がそういうのがないということと。山へ登れない人も来ているのにそういうのを…。

【宮腰委員】

要するにもっと大きなものを作りたいと…。

【山本副会長】

3メートル×3メートル。

【宮腰委員】

3メートル×3メートル。今ので3メートルくらいあるでしょ。その原案というか、そのモデル、その制作はよいですよ。業者に任せてよいですよ。その案を作るというものはあるんですか。

【山本副会長】

今それで、申請と同時に補助金のこともありますので、それでこの前に第1回の打ち合わせして、皆さんの意見をいろいろ聞きながらということ。

【宮腰委員】

要するに原案、ジオラマのそのイメージとかさ、どなたが作るんですかね。どなたの案でそれを作る予定なんですか。

それは制作を頼むのは業者で頼むのであって、業者に春日山の姿を描けって言うのも無理でしょ。

【吉田会長】

専門家に聞いてという話に書いてある。名前は出てないですね。よろしいでしょうか。

それでは【春－5 春日山城跡松林の保全（松葉カキ）事業】につきまして、ご意見がございましたらお願いします。よろしいですか。

（はいの声あり）

【春－6 春日山城跡環境整備事業（草刈と草刈機購入補助）】ですね。これにつきましてご意見をお伺いします。昨年もいろいろ話が出てきましたが。ご意見ございますか。特になしでよろしいですか。よろしいですか。

（はいの声）

【春－7 高志小図書ボランティア事業】につきましてご意見がございましたらお願いいたします。よろしいですか。

（はいの声）

【春－8 高齢者の健康づくり活動（まちづくり）と地域交流事業】につきまして意見ございましたらお願いいたします。よろしいですか。

（はいの声）

【春－9 春日区の交通安全のための道路標示の修繕及びカーブミラー設置事業】につきまして意見ございましたらお願いいたします。

（なしの声）

それでは次【春－10 謙信公ゆかりの青苧を再生し、青苧に関連する文化の復活と創造を通して、地域活性化や観光促進に資する事業】につきましてご意見ございますでしょうか。よろしいですか。

（はいの声）

【春－11】はヒアリングですね。【春－12 謙信ジュニアバレーボールクラブ事業】につきましてご意見ございましたらお願いいたします。よろしいですか。

（はいの声）

【春－13 御館リバーサイド環境美化事業】につきましてご意見お願いいたします。これ確認事項ありましたね。事務局お願いします

【恩田係長】

こちらの御館リバーサイド環境美化事業について、御館川沿いの堤防に桜を植栽するということについて、県の許可が得られるかどうかということが調整中であったという状況が前回の会議時の状況でしたが、先日、提案者の方が来庁され、県の許可は得られない見込であるということ、桜の木の植栽について断念されるということで意思決定したと話されました。従いまして提案については、桜の木の植栽の部分を除いた形で審査いただきたいということになります。

（資料確認中）

提案については一旦受付すると取り下げができないということになっていますので、事業費の変更ということでご理解いただきたいと思います。

【吉田会長】

桜がだめということなんですけど、これについて何かご意見ございますでしょうか。金額は117,000円に変わります。よろしいですか。

(はいの声)

最後【春－14 高志小学校区幼年野球育成事業】につきましてご意見ございましたらお願いいたします。特になしでよろしいですか。

(はいの声)

それでは、ヒアリングの開始時間に至っておりませんので、議事としましてはその他へ飛びます。先ほど事務局さんからの説明がありましたが、今日のこの意見交換の後に皆さん採点されて事務局へ提出をされるのですが、今提出の期限ですね変更になって、19日のお昼までという条件で問題なければそうしたいと思うんですが、できないという方はいらっしゃいますかね。できるだけ早く出していただければ集計もスムーズです。そういうことでよろしいですね、19日のお昼までには出すよと。できるだけ早めに採点して出してください。何かあります。問題なし。そういうことで次回は、来週の5月21日水曜日ということで、6時半、春日謙信交流館になります。皆さん特にその他ないですか。なければ休憩、次のヒアリングが始まるまで一応休憩といたします。

(休憩中)

(提案者入室)

【吉田会長】

会長の吉田と申します。ご提案について質問事項があつて、来ていただいています。よろしくお願いいたします。

およそ10分間でまとめて話していただくということ、9分経過の時にチャイムを鳴らしますので、時間が迫ってますよということでご理解ください。その後、質問時間を10分とってありますので、お答えいただければというふうに思います。そういうことでよろしくお願ひします。

(提案者自己紹介)

【吉田会長】

それでは、質問事項の1番目からお願いします。

【提案者】

「パソコンやタブレット端末の保管、管理体制について教えてください。」ということですが、常にウィンドウズアカウント、パスワードをタブレットとパソコンにかけるといって対応させていただきます。それと、パソコンの保持者の所在の確認ということで管理票を作り、常に誰が持っているのかということと講座の後にE-mailを私のところに送ってもらい、私がエクセルの表に記入していく形で所在の確認というのをとっていきます。質問等ございますでしょうか。

【吉田会長】

ざっと4番までお願いします。

【提案者】

次の「パソコンやタブレット端末について団体構成員や受講者等が使用する機器の活用を検討されませんでしたか。なぜそうされずに購入する計画をされたのかご事情、お考えを教えてください。」こちらに関しましては、やはりパソコンの教室を開くにあたって、やっぱりデスクトップの方がまだまだ多いと思います。今ノートの普及率が60%前後なので、これからもっと増えてくると思うのですが、まだご高齢の方というのは画面が大きいデスクトップを好むので、どうしてもデスクトップの方は持って来れないと思うのです。そういったことからノートパソコンの方がよいと考えました。

次の「団体や構成員のものは使えないのですか」というご質問ですが、やはりパソコンというのは個人情報のかたまりであって、その人が使うクレジットカードの情報ですとか、Eメールアドレスですとか、そういったものがやはり流出してしまう恐れもあります。自分のスマートフォンを他人に貸すということを考えると、やはり嫌な気持ちがあるかと思われましたので、構成員のものは使わないという方針で提案させていただきます。

次に購入については、1年のレンタルと購入の場合の見積を取り入れて比較したところ、購入の方がコストを1/2に削減できますので、そちらで対応させていただきたいと思います。

続きまして3番目のご質問です。「コミュニティサイトやリアルイベントについての具体的な内容を教えてください」ということですが、こちらはフェイスブックという

ものを活用して受講者の方、約30名ぐらいで集まって、フェイスブックに登録されて、各々が自分自身でフェイスブックを見たり、できるレベルになってからイベントについて話し合うことを想定しています。例えば、インターネットで何か物を購入した体験のプレゼン大会でもよいですし、インターネットを使えるようになってスカイプで1回しゃべり場という、NHKでやっている、そういったものでもよいとは思いますが、他にも何かスポーツ、今ランニングが流行っているので、ランニングイベントですね。今のところフェイスブックを使っていこうかなと思っています。フェイスブックは今は全世界で使われていますので、日本でもミクシィを押しつけてフェイスブックの方のシェアが多くなっていますからフェイスブックの方がよいかなと考えています。情報共有の写真のアップ、その辺のレスポンスが早いので、そちらの方がよいかなと考えております。

次に4番目のサーバーの経費が計上されていませんということですが、先ほど申し上げましたとおりフェイスブックを使いますので、フェイスブックさんがサーバーを管理していますので、特にこちらでサーバー費ですとか、そういった計上は必要ありません。以上で説明を終わらせていただきますが、ご質問等ある方はいらっしゃいますでしょうか。

【吉田会長】

事前の質問事項に対してご回答いただきましたが、ご質問等ありましたらお願いします。

【橋本委員】

今日はありがとうございます。すごくたくさんお聞きしたいことがあるのですが、質問だけ先にざっと言ってよいですか。ひとつひとつ…。

先ず①で、パスワードで管理。パソコンの保持者や誰のところに今パソコンがあるのか、タブレットがあるのかとか、所在を把握とおっしゃっていたのですが、月3回の教室なので、誰のところにあるかという今ご回答だと、持ちまわしで、貸してしまう。貸し出してしまうような印象を受けたんですが、それは計画に書いてあるとおり、2、3回、謙信交流館でというのは原則変わらないのでしょうか。

【提案者】

仕事の都合ですとか、少し走り出してみないと分からない部分があります。どのくらいの利用があるかというのも今の時点では分かりませんのでケースバイケースで対

応することもあるかと思っています。教える方、ボランティア等に使用させるパソコン類は私が責任を持ってしっかり管理いたします。お客さまにお持ち帰りいただくということはありません。

【橋本委員】

講師が出張したりとかということもないということでしょうか。

【提案書】

ありません。

【橋本委員】

後ですね、参加者がパソコンに関してはデスクトップタイプのものをほとんどお持ちの方が多いと思うのでということなのですけれども、300人の方を最終的に対象、目標ということですが、ここで300人トータルでというのは延べ数のことでしょうか。

【提案者】

300というのは語弊があったかもしれません。1回のクラスの参加者は8人前後です。例えば、大手電気屋さんの会員数を考えていただければ、300人いたとしても、実質稼働するのはその中の1/10か2/10なのか。300人が一度に集まるということではないですね。教えるのはすごい労力があるものです。もし自分のおじいちゃん、おばちゃんに何か教える時は、やっぱりマンツーマンや2対1。最大でも2人の講師であれば参加者は8人までとするのが私の中では限界だと思っています。

【橋本委員】

その上で300というのが、月3回のっていうのは一人ごと、1回の教室は8人だったとして、お一人の人がそこに通うようになった時に、だいたいその方が月3回ということなのか、このコミュニティサイトの運営そのものが月3回しかやらないというふうになって、だから例えば私が、3人がそれぞれコミュニティに参加したいとなった時に、私は水曜日がいいわ。私は木曜日じゃないと、金曜日じゃないと。それぞれに対応できるように、それぞれの人が月3回、それぞれに対していろんなコースを設けてするのであれば、延べ数300人というのは何となく現実かなとか思ったりするんですが、コミュニティ全体が講座しかやらないとなった時になかなか目標数と合わないような気がしたので、その辺ちょっとお伺いしてみたかったですけれども…。

【提案者】

フェイスブックは、友達を紹介して増やしていくというものなので、受講者の方がその友達、フェイスブック出来る方ですとか、そういう人をこのコミュニティに参加してみないかと誘う。だいたいが友達同士のつながりで増えていくという形です。受講者の方がフェイスブックのサイトに登録されて繋がりを増やしていただければと思っています。

それと、月3回というのは、今の予定ですとAコースが初めてのインターネット、Bコースがフェイスブック登録までの流れ、Cコースが実際にサイトを見てみようなど、そういったコース別でやろうかなと考えております。

最初1か月の初めはAコースでも、ほんとにインターネット接続が分からないという方。Bコースは少しそれでフェイスブックのサイトを見てみよう、アカウントを作ってみようという方、そういうイメージをしていますが、正直私も、どのコースが埋まって、どのくらいしっかりと継続的に来てくれるのかというのはやってみないと分からない所です。

【橋本委員】

ちなみにこの中でフェイスブックされてる方っていらっしゃいますか。登録ある方。

(挙手する委員2名)

大変だ。多分今この話は五里霧中の感じだと思うんですけど、フェイスブックのその登録をすると、まるで個人のホームページみたいに自分のこんなことあったよ、あんなことあったよみたいなことを載せられたりするのですが、そういう情報の交換の場なんですけど。そこにフェイスブックページというのがあったり、フェイスブックグループというのがあったりするんですよ。グループというのを作るとそこに登録をいろんな人がしてそこでいろんな情報交換ができるようにすると。ちなみに作ろうと考えると、ページですか、グループですか。

【提案者】

グループです。

【橋本委員】

グループですね。グループだったら、その人たちが自発的に書き込みができるので情報交換もできるということだと思ふ。その人数が300なんですね。分かりました。そのリアルな教室の参加の、それを体験する人が300を目指しているのではないと

ということが今はっきり分かってよかったです。

まだあるんですけど、パソコン自体は原則、もしノートブックやタブレットを持っている人がいればその方はそれを持ってくればよいという感じですね。

【提案者】

そのとおりです。

【橋本委員】

あとレンタルについてなんですけど、月額24,000円くらいになっていて、それを日割りみたいなレンタルのプランというはあたりしないのでしょうか。

【提案者】

謙信堂さんから見積を取りましたが、レンタルだと厳しいというお話をいただきましたので、このような形で提案させていただいております。また、参加者の方が持ち込むパソコンを使うのが原則ですが、デスクトップをお持ちの方がいた場合に貸し出すことを想定しています。

【橋本委員】

月3回で使えるようになるのかという、すごい心配、基本的な部分が実はあるのかなと思っていて、電話とかメールとかでのサポート体制というのはどういうふうにお考えでしょうか。

【提案者】

メールでのサポートだと厳しいと思っています。これからインターネットをしようという方は、JCVさんや高速フレッツ光、ルーターを使っている方は、イーモバイルなどかと思いますが、例えばフレッツ光さんですと、リモートサポートサービスという月500円のサービスがあります。そこに電話をすればパソコンの操作から音楽の入れ方まで教えてくれるサービスがございます。JCVですとWi-Fiの自宅設定プラン、500円を毎月払うと1回セッティングしにきてくれて、操作関係が分からなくなればJCVさんの本社でもよいですし電話対応をしてくださるということです。

【橋本委員】

パソコンの操作のレベルで躓く人だったら、フェイスブックに関わるというのはかなりレベルが高くなってきていると思います。それで、そのフェイスブックの操作についてサポートするサービスというか、そういうご用意はいかがでしょうか。

【提案者】

メール対応、電話対応というのは場所的に厳しいなというところがございます。フェイスブックの入り方とページの見方の一連の流れを紙に書いたもの。そのくらいのサポートはできると思うのです。パソコンを持っていない方に教えるのは正直難しいと思っています。パソコンを買ってインターネットで多少ホームページを見たりしてる方は結構大勢いるのですが、買い物や旅行申込みはできない、キーボード操作が出来ない方という方はいますから、その層が講座の対象なのかなと思っています。まったくの初心者ですと難しいかもしれません。携帯のバイブレーション機能で携帯が震えて壊れてしまったと思う方もいるので、そこまでいってしまうと難しいと思っています。パソコンを持っていてインターネット環境があって、サイトを見る以外に少し違うことをしてみたい、ショッピングでもよいです。その層の方にアプローチをかけるという形になります。レベル分けというのは難しいのですが、講座に来る方はそこまでの理解はあるのかなと思っています。フェイスブックを作ろうですとか、そういった興味があれば、知っているというレベルであればきっと分かると思うのです。そして、テニススクールやスポーツクラブもそうですが、やはりレベル分けというのは何回か通っていただかないと難しい、最初からはなかなか難しいと思っています。

【橋本委員】

さっきスカイプということだったんですけど、複数人でスカイプのやりとりするときは、ゴールデン会員かなにか、会員は有料の部分の負担がどなたがされることになって、その部分の計上はされなくて大丈夫ですか。

【提案者】

ゴールデン会員というのは、想定していなかったもので…。スカイプというのは案ですので、受講者の様子を見て決めていきたいと思います。他にもサイボウズという新しいシステムがあるので、それだと一応何人でも通話できるという形です。やろうと思えば無料会員で電話することもできます。ただ、スカイプでの会話は正直厳しいかなという面もあります。

【吉田会長】

受講者のレベルに合わせて進めてもらえればよいですよ。その最終的な難しい操作や何かは別にして…。

【提案者】

正直申しまして私もやってみないと分からない部分があります。

【吉田会長】

やってみてください。それとボランティアで足りるので、頻度はやっぱり限界があるね。だからスタッフとかが充実してくれば、月の回数とか対象人数も増やせると思うので。これから試行されるということで初めての試みということでご理解をいただいて採点していただく…。

他の委員さん何か質問はないですか。

【大口委員】

イーモバイルをお使いですよ。予定ですよ。イーモバイルを使うとパソコン無料というふうな設定が各所にございますね。イーモバイル契約にネット、その契約の元においてパソコンが無料になるとか、そこらじゅうでやっていますよね。それはご存知ですよ。

【提案者】

はい。

【大口委員】

じゃ、イーモバイル使いますよね。それで金額があがってますね。分かりました。じゃもう一つ。フェイスブックとかラインとかですね、そういう系統で今お互い誹謗中傷し合うということが社会問題で、これは分かっていますね。

【提案者】

はい。

【大口委員】

私 아이폰 止めました。なぜか。こんな小さいのでネットやってたって、私達みたいな年寄りにはだめなんです。これは年寄りに普及させようということでパソコンをしようとしてるんだと私は思います。しかし、年寄りがついてくるかな。私のような。それが疑問です。それで終わります。

【提案者】

今、イーモバイルで0円と言われましたが、そちらはもうやっていません。総務省から審査が入って商品から値引きすることは難しいということで、多分今はどこの電気屋さんに行ってもできないと思います。後、値引きというのは月々の基本使用料が5,980円になるのです。通常の方は3,692円です。月々お使いになるので、結局2,000円分を負担している。実質ローンで払うという形ですから結局のどこ

ろ無料ではないのです。無料って書かれていて騙されてしまう人もいるのです。私は、そのローンを組まずに一番安い3,692円プラス8%の税でやらせていただくという考えです。

【大口委員】

そうすると通信速度が遅いのは分かってますね。

【提案者】

イーモバイルの通信速度は実質、この辺りは約15メガというスピードが出ると思うのです。例えばJCVをお使いの方、トリプルセットですね、それですと実質7メガ、7というスピードです。イーモバイルですと、6か多分7くらいのスピードだと思います。

【大口委員】

うちは50くらいでますよ。

【提案者】

50メガ出る場合は6,700円のトリプルセット200メガバイトに入られてると思います。多分月々の料金が7,000円くらい、通話料+電話+インターネットで入られてると思います。

【大口委員】

2点目の質問、もう一つお願いします。ラインとかフェイスブックが社会問題で中傷し合っ問題になっていることについてどういうふうにお考えですか。

【提案者】

そういった中傷ですとか、そういった不特定の方の意見というのは、フェイスブックやラインがメインではなくて、誰が書いているのか分からない2ちゃんねるなどの掲示板だと思います。フェイスブックではそういう誹謗中傷のニュースは聞かれません。インターネットか何かで調べてもらえればよろしいかと思いますが、フェイスブックの良いところは、誰が書いているか分かりますから、そこでおかしなことを書いてしまうと、他の友達の方、知り合いの方からこの人はなんだということになります。それで私はフェイスブックをチョイスさせていただいています。

【大口委員】

最後の、私はこの小さい 아이폰 を止めて、今普通の電話に変えました。年寄りが小さいのを、目が見えないのを操って活発化、使えると思いますか。

【提案者】

使っている方、その人によると思います。例えばJALの稲森さんは、もう70歳を超えているかと思いますが、そういったIT器具を使っています。やはり本人の次第だとは思いますが、本人のやる気を引き出すということは一番難しいことです。最初から無理だという方は…。私としては、その方はその方で逆に使ってその人を不幸にするより、使いたいという人に手を差し伸べてあげるのがよいかと私は思っております。

【鷺澤委員】

もっとも初歩的なことをお聞きしますが、目的はIT機器を所有している高齢者が使えるように、それからネット上の交流の場を創出するというようなことが書かれていますが、春日地域の高齢者の実態、そういうことを本当に望んでいるのか。例えば、春日地域にはそれぞれの町内に寿会という老人会がありますけれども、そういった人たちのアンケート等を聞いて、本当にこういうような講座を設けてやっていけば、素晴らしいことなんだということをお考えなんでしょうか。老人に対する問題についてですね、一番重要なのは人間対人間の交流を多くの高齢者が求めているというのが実態ではないかという具合に考えてやっています。そういった意味で、春日地域の高齢者を対象にしたその高齢者の実態をどのように認識しているのかということと、それからだぶりますけれども、SNSの問題が社会的な問題に極めて大きな問題になっています。例えば個人情報が出てるとか、あるいは人間関係のトラブルが生じるとか、フェイスブックだって同じことです。そういうことをどのように考えて対応できるのかどうか、それから3点目ですけれども、本当にやろうという高齢者を対象にしてやるならば、もしやるならば、例えば指導者謝礼ではなくて、完璧にボランティアで時間を使ってですね、ボランティアでやることは不可能なのかどうか、その3点をお聞きしたいと思います。

【提案者】

1点目の高齢者の方のニーズを踏まえているのかどうかという件に関しましては、皆様の方がいろいろな活動をされていますから、私よりよく知っておられると思いますので、そういったご意見をお聞きできれば幸いです。鷺澤様がおっしゃったとおり、分からない部分があります。JCVさんの無料パソコン教室は、満員御礼というようにも聞いていますが、ニーズがどこまでのものか分からない部分があります。

皆様の方が上越に長く住まれていますし、コミュニティ関係もお持ちだと思いますので、そこは勉強させていただければと思っています。鷺澤様が言われたように人と人との交流がよいということについては、私もその方が人間としてはよいとは思いますが、IT機器も使えないと、ホテルを予約するにしても高いお金をわざわざ払って予約したり、飛行機をとる時も倍以上の値段になってしまうことがありますからIT機器を使わないでいることが本当に幸せなのかどうなのかという思いもあります。

【吉田会長】

一つの道具だよ。それを上手く使うかが問題ですね。使い方を誤らないように教えていただければよいのじゃないですか。

【提案者】

先ほど、責任というご発言もありましたが、例えば登山をするときにも何らかの危険はつきものかと思っています。今日ここに車で来るにも、多少事故のリスクというのがあるかと思っています。何事にもリスクはありますが、パソコンを操作して命を落とすことはなかろうかと思っています。私も本当にニーズがあるのかどうかというところは半信半疑なところがあります。最初のお客が集まらないかもしれない。周知してから集まるまで時間がかかると思うのです。2か月、もしかしたら、それ以上かかるのじゃないかなと思っています。ボランティアで教えるというのは結構難しいと思っています。私もおじいちゃんとかに教えていると、すぐに忘れてしまう。次の日には忘れてしまっている。その辺でボランティアですとなかなか集まらないと思っています。震災などの人命にかかわるものは、ボランティアが集まりやすいと思いますが、こういった娯楽的なものにボランティアを集めることは難しい。ガソリン代もかかりますし、多少の資料作成はしないといけないので、なかなかボランティアやってくれる方というのはいないのじゃないかと思っています。

【吉田会長】

ありがとうございました。質問の中でちょっと失礼があったかもしれませんが、ありがとうございました。以上で質問を終わりますので、今日はどうもありがとうございました。

【提案者】

どうもありがとうございました。

(提案者退室)

【吉田会長】

それでは、今のインターネット地域活性化事業なんですが、これについて意見がございましたらお願いします。掴みどころが難しい内容なので、時間がかかってしまいましたが、仕方がないと思うんですよね。やっぱりできるだけ分かっていただくということで…。

【宮腰委員】

今の質問ですかね、意見が、意見というのがあるから、私言ったんですけど、こういう提案っていうのは、私は若い人でなければできない提案だと思うんですよね。確かに皆さんのおっしゃることはおっしゃる通りなんですけれど、その一石を投じたという形だと、意味ではね、私は高く評価できるんじゃないかなと思うんです。確かにセキュリティも問題とか、そういうのはいろいろありますけれども、そういうところも彼らが知っている範囲できちんと教えてくれるのではないかということは信じてるところから始めないとね、あんまり心配してもあれなんで、私はそういうのは積極的に一つのツールとして我々これからどんどん年齢が上がっていても、生活の一つのツールとして知らないよりは、知っていた方がよいだろうという意味では良い提案なんじゃないかなと思います。

【吉田会長】

他にいかがでしょうか。

【宮崎委員】

これは認めてやって、備品を買ったら、さあ集めたら、誰も来なかったと。例えばですよ。その場合その備品はどうなるんですかね。

【吉田会長】

事務局どうですか…。

【北島センター長】

前回ちょっとお話したと思うのですが、当然補助金ですから品物を返されても困りますので、お金で返していただくということ、返還していただくことになります。

【吉田会長】

実際、実績報告がありますのでね、そこで事務局さんがチェックされる。

【池杉委員】

聞いていて、私ちょっとよく分からなかったもので、確認なんですけど、ノート型パ

ソコンとタブレット、これを2台買う理由は、デスクトップを持ってらっしゃる方が40%いる、いらっしゃるからということ…。

【吉田会長】

そのために、持ってくるのが大変だから貸します。

【池杉委員】

ということは、結構デスクトップから新しいパソコンに買い換えて、それで今移動型を持っていらっしゃる方が結構いらっしゃると思うんですね。それで今の話で、もう帰られたのだけど、どのくらい来るか分からない、どんなふうな方が来るかは分からないとかおっしゃっても、フェイスブックに興味があり、やってみようと思うという前提を考えれば、やっぱり4月9日を意識して買い換えて、ネットをやっているという方ならば、持ち歩けるという可能性はその6割ではなくもっと多いような気がするのです。ですからさっきのセキュリティの問題もあるから、基本自分で持ってきたパソコンを…。

【吉田会長】

それは今度採択の段階で判断した方がよいのじゃないですかね。減額するとか2台ずつ買うんじゃないでなくて1台ずつでよいのじゃないの、減額するよというのでよいのじゃないですかね。そういう考えもあるということは話していただいてよかったですと思います。

【鷲沢委員】

あの私の経験上ですね、例えば上教大ですとか、高田商業高校ですとか、あるいは上越総合ですかね、それからJCVもさっき出ましたけれども、そういうところでパソコン教室みたいな形でやっているんです。それでそれはですね、県の教育機関から是非市民を対象にして、地域と一体となってやりなさいということでやっているんです。そういう意味で、週に1回、例えば私、13年間高田商業にいましたけれども、13年間週に1回ですね、高齢者とか希望者を対象にしてですね、そういう教室をやっているんですよ。だからそういう機関と一緒にいけば、もうインターネットは自動的につながってますし、デスクトップですし、あるいはノート型でもありますから、両方ありますから、そういうところと一緒にそして、提案者がそこに参加して、学校の先生方だけでなく、そこに皆でやって上教大の生徒と一緒にって高齢者にですね、パソコンなりネットの活用方法、利用方法等について指導していく

という、そういう方向なら分かるんだけど、ここですべて費用を払ってやっていくという形でやるのはちょっと…、質問をしようと思ったんだけど、非常にお金も問題点も多いような気がするというのは正直な今聞いた感想であります。以上です。

【吉田会長】

この辺は各々のとり方が違うと思いますので、それなりに採点の方お願いします。

4 閉会

【吉田会長】

はい、以上で意見交換の方終わりました。その他特にございませんね。事務局もよろしいでしょうか。ちょっと時間が超過して申し訳ございません。不明な、よくわからない点があり、時間がかかってしまいました。それでは以上で第2回目の協議会を終了いたします。ご苦労様でした。

9 問合せ先

自治・市民環境部自治・地域振興課中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-5111 (内線 1449、1547)

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。